

「脾臓摘出後の重症感染症による電撃性紫斑病と可逆性後頭葉白質脳症を発症した1例」について

加古川中央市民病院 呼吸器内科では、現在、脾臓摘出後に重症感染症を発症した患者さんを対象に表題の研究を実施しております。

この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

脾臓摘出後の重篤な合併症の一つに侵襲性肺炎球菌感染症があります。その進行は急速かつ致命的となる可能性があるため、肺炎球菌ワクチンの接種が強く推奨されています。しかし、現状ではワクチン未接種の患者さんも少なくなく、意識障害を来すほど重症化してから初めて侵襲性肺炎球菌感染症と診断されることがあります。特に、人工呼吸管理下で鎮静されている患者さんにおいては、意識障害が一時的な薬剤効果と判断されやすく、重大な神経学的変化が見逃される可能性があります。

そこで、肺炎球菌ワクチン未接種で侵襲性肺炎球菌感染症および敗血症性ショックとなった患者さんの ICU 入室後に観察された急激な血圧上昇および意識障害の原因を検討・解明することで、ICU 管理下における意識評価の重要性を明らかにし、今後の集中治療における診療方針や予後改善につながると考えます。

【研究期間】

研究期間：加古川中央市民病院長承認日 ～ 西暦2026年3月31日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

加古川中央市民病院 呼吸器内科で脾臓摘出後に重症感染症を発症した患者さんの下記情報を診療録より取得いたします。

基本情報：年齢、性別、既往歴、内服薬、生活歴

疾患情報：血液検査、胸部単純、胸部 CT、頭部 CT/MRI、脳波など

【個人情報保護の方法】

この研究ではプライバシー保護に配慮し、患者さんの試料や情報は直ちに識別することができないように作成して加古川中央市民病院の鍵のかかる保管庫で管理します。研究成果を報告する時も個人が識別されないように行います。患者さんの個人情報については、本研究に関わる全ての研究者が守秘義務を順守するように徹底いたします。個人情報を外部機関へ提供することはありません。患者さんの個人情報は研究責任者が責任をもって保管します。

【試料・情報等の保存・管理責任者】

加古川中央市民病院 呼吸器内科 責任者氏名：西馬 照明

[データ提供による利益・不利益]

本研究では既存情報を用いた観察研究であり、研究対象者に直接の利益、不利益は生じません。

利益：通常診療の情報を用いており、データをご提供頂いた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。本研究への参加を通じて、同じあるいは類似の疾患を呈する患者さんの治療の予測や治療成績の向上に役立つ可能性があります。

不利益：診療録からのデータのみ利用するため特にありません。

[登録終了後のデータの取り扱いについて]

本研究において取得したデータ等は、研究期間中は加古川中央市民病院において厳重に保管いたします。研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内のデータベース内のみで管理し、プリントアウトや外部持ち出しは行いません。

[研究成果の公表について]

研究成果は学術目的のための論文や学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定される情報は公表いたしません

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

データおよび情報の研究利用の拒否および同意の撤回についてはいつでも可能ですので、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。しかし、同意を撤回された時点ですでに研究成果が学会や論文などで公表されていた場合は廃棄ませんのでご了承ください。なお、同意の拒否および撤回による不利益はありません。

[問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 呼吸器内科
西馬 照明
連絡先：079-451-5500